

科目名 (英)	医療福祉論 (Medical Welfare)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	片岡洋樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	集中講座
教員の略歴	理学療法免許取得後12年経過、米国理学療法にも数回触れ、通訳の経験を有する						
授業の学習内容	米国と日本における理学療法士のステータス、学習内容、技術・知識、社会情勢の違いを学ぶことで、理学療法士に必要な視野を広げる。 また、実際に米国で実施されている理学療法技術やトレーニングを体験する。 異国の地での異文化交流を通し、人としての思考の幅を広げる。						
到達目標	米国で実施されている最先端の理学療法技術やトレーニングに触れ、今後の日本での学習へ活かすことを目指す						
評価方法と基準	レポート(指定のワークブック、英語論文の和訳課題) 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1/13	講義・実習	合同オリエンテーションにて 米国での過ごし方を確認する	随時配布した資料を確認
2	1/13	講義・実習	肩関節に対するアプローチを体験する	随時配布した資料を確認
3	1/20	講義・実習	足関節に対するアプローチを体験する	随時配布した資料を確認
4	1/20	講義・実習	米国における医療に関する法律を理解する	随時配布した資料を確認
5	1/27	講義・実習	ピラティスアプローチを体験する	随時配布した資料を確認
6	1/27	講義・実習	物理療法アプローチを体験する	随時配布した資料を確認
7	2/3	講義・実習	筋カトレーニングを体験する	随時配布した資料を確認
8	2/3	講義・実習	バランストレーニングを体験する	随時配布した資料を確認
9	2/10	講義・実習	ウォーミングアップの重要性を理解し、体験する	随時配布した資料を確認
10	2/10	講義・実習	クールダウンの重要性を理解し、体験する	随時配布した資料を確認
11	2/17	講義・実習	米国におけるトレーナー活動を述べる事ができる	随時配布した資料を確認
12	2/17	講義・実習	スポーツ選手の評価について説明できる	随時配布した資料を確認
13	2/24	講義・実習	米国理学療法士について述べる事ができる	随時配布した資料を確認
14	2/24	講義・実習	ホスピタリティの概要を説明できる①	随時配布した資料を確認
15	3/3	講義・実習	ホスピタリティの概要を説明できる②	随時配布した資料を確認
		試験	指定レポート冊子を提出	配布資料の復習
準備学習 時間外学習		授業内で学んだことのメモから都度まとめ作業を実施すること		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
世界の理学療法における動向の資料を配布、理学療法海外研修の手引き				

科目名 (英)	統計学 (Stastics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高橋未倫
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士として8年間の実務経験. 修士(理学), Golf physio trainer(2017取得).						
授業の学習内容	この授業は、理学療法士として必要な統計学の知識を学修するためのものです。 他に関連する科目として、医学概論における疫学分野と関係します。 受講生に対する要望として、卒業後の研究活動に役立てるためにを学んでほしいと願っております。						
到達目標	①医学研究に必要な統計学の基礎知識を説明できる。 ②統計的視点からの医学的判断を説明できる。						
評価方法と基準	レポート課題70%、出席数30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/28	講義	医学研究のプロセスについて説明できる。	授業内容の復習
2	10/28	講義	データの収集について説明できる。	授業内容の復習
3	11/4	講義	変数について説明できる。	授業内容の復習
4	11/4	講義	変数の測定方法について説明できる。	授業内容の復習
5	11/11	講義	測定の妥当性について説明できる。	授業内容の復習
6	11/11	講義	悉皆調査について説明できる。	授業内容の復習
7	11/18	講義	標本調査について説明できる。	授業内容の復習
8	11/18	講義	調査票の作成方法について説明できる。	授業内容の復習
9	11/25	講義	選択枝の設定について説明できる。	授業内容の復習
10	11/25	講義	実験計画について説明できる。	授業内容の復習
11	12/2	講義	統制について説明できる。	授業内容の復習
12	12/2	講義	クロス集計析について説明できる。	授業内容の復習
13	12/9	講義	代表値について説明できる。	授業内容の復習
14	12/9	講義	相関分析について説明できる。	授業内容の復習
15	12/16	講義	スクリーニングについて説明できる。	授業内容の復習
準備学習 時間外学習			授業内容の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 □ 授業内で適宜配布.				

科目名 (英)	運動学実習 (Practice in Kinesiology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜 1,2時限
教員の略歴	大学卒業後、病院にて回復期リハビリと介護保険領域のリハビリテーションを経験。専門学校教員としての教務とともに、市区町村からの介護予防委託事業や、理学療法士を対象とした講習会運営などに携わっている。						
授業の学習内容	運動学の講義で得た基礎知識をもとに、実際に行われる関節運動や基本動作について理解を深める。また、自分で身体運動を観察して記録を行い、測定したデータをもとにレポートにまとめる作業を通じて、適切な表現方法を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動学的知識について、実習を通して体験ができる。 ・運動学的用語を理解し、説明に用いることができる。 ・日常動作を現象として捉え、特徴的な運動パターンについて、観察結果を共有できる。 						
評価方法と基準	・筆記試験：100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/13	実習	オリエンテーション	講義の予習復習を行う
2	9/13	実習	身体運動力学に必要な基礎用語を確認する	講義の予習復習を行う
3	9/27	実習	生態観察(体表解剖、身体計測点)	講義の予習復習を行う
4	9/27	実習	生態観察(体表解剖、身体計測点)	講義の予習復習を行う
5	10/18	実習	生態観察(体表解剖、身体計測点)	講義の予習復習を行う
6	10/18	実習	計測(関節運動)	講義の予習復習を行う
7	10/25	実習	機能解剖学(上肢筋の起始・停止、作用など)	講義の予習復習を行う
8	10/25	実習	機能解剖学(上肢筋の起始・停止、作用など)	講義の予習復習を行う
9	11/1	実習	機能解剖学(下肢筋の起始・停止、作用など)	講義の予習復習を行う
10	11/1	実習	機能解剖学(下肢筋の起始・停止、作用など)	講義の予習復習を行う
11	11/8	実習	生態力学基礎(運動パターンの理解と線画練習)	講義の予習復習を行う
12	11/8	実習	課題を用いて運動分析を行う(単関節)	講義の予習復習を行う
13	11/15	実習	課題を用いて運動分析を行う(多関節)	講義の予習復習を行う
14	11/15	実習	課題を用いて運動分析を行う(歩行動作)	講義の予習復習を行う
15	11/22	実習	計測(筋力)	講義の予習復習を行う
16	11/22	実習	計測(筋力)	講義の予習復習を行う
17	11/29	実習	バランス制御と筋活動の推定(静止肢位)	講義の予習復習を行う
18	11/29	実習	バランス制御と筋活動の推定(静止肢位)	講義の予習復習を行う
19	12/6	実習	起居動作の動作分析 (線画作成が中心)	講義の予習復習を行う
20	12/6	実習	起居動作の動作分析 (関節運動の変化と筋活動の推定)	講義の予習復習を行う
21	12/13	実習	歩行動作を観察・分析し、 レポートにまとめることができる	講義の予習復習を行う
22	12/13	実習	歩行動作を観察・分析し、 レポートにまとめることができる	《レポート提出》
	1/11	試験		
23	1/18	実習	まとめ	講義の予習復習を行う
準備学習 時間外学習	1年次で学習した解剖学・運動学との関連が深いため、より理解を深めるために復習をして運動学実習の講義を受けることが望ましい。			
【使用教科書・教材・参考書】				
基礎運動学 第6版 (医歯薬出版株式会社)				
筋骨格系のキネシオロジー (医歯薬出版株式会社)				
観察による運動・動作分析ノート(医歯薬出版株式会社)				
日常生活活動の分析 (医歯薬出版株式会社)				

科目名 (英)	運動学実習 (Practice in Kinesiology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	後期 月曜 1,2時限
教員の略歴	大学卒業後、病院にて回復期リハビリと介護保険領域のリハビリテーションを経験。専門学校教員としての教務とともに、市区町村からの介護予防委託事業や、理学療法士を対象とした講習会運営などに携わっている。						
授業の学習内容	運動学の講義で得た基礎知識をもとに、実際に行われる関節運動や基本動作について理解を深める。また、自分で身体運動を観察して記録を行い、測定したデータをもとにレポートにまとめる作業を通じて、適切な表現方法を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動学的知識について、実習を通して体験ができる。 ・運動学的用語を理解し、説明に用いることができる。 ・日常動作を現象として捉え、特徴的な運動パターンについて、観察結果を共有できる。 						
評価方法と基準	筆記試験：100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/13	実習	オリエンテーション	講義の予習復習を行う
2	9/13	実習	身体運動力学に必要な基礎用語を確認する	講義の予習復習を行う
3	9/27	実習	生態観察(体表解剖、身体計測点)	講義の予習復習を行う
4	9/27	実習	生態観察(体表解剖、身体計測点)	講義の予習復習を行う
5	10/18	実習	生態観察(体表解剖、身体計測点)	講義の予習復習を行う
6	10/18	実習	計測(関節運動)	講義の予習復習を行う
7	10/25	実習	機能解剖学(上肢筋の起始・停止、作用など)	講義の予習復習を行う
8	10/25	実習	機能解剖学(上肢筋の起始・停止、作用など)	講義の予習復習を行う
9	11/1	実習	機能解剖学(下肢筋の起始・停止、作用など)	講義の予習復習を行う
10	11/1	実習	機能解剖学(下肢筋の起始・停止、作用など)	講義の予習復習を行う
11	11/8	実習	生態力学基礎(運動パターンの理解と線画練習)	講義の予習復習を行う
12	11/8	実習	課題を用いて運動分析を行う(単関節)	講義の予習復習を行う
13	11/15	実習	課題を用いて運動分析を行う(多関節)	講義の予習復習を行う
14	11/15	実習	課題を用いて運動分析を行う(歩行動作)	講義の予習復習を行う
15	11/22	実習	計測(筋力)	講義の予習復習を行う
16	11/22	実習	計測(筋力)	講義の予習復習を行う
17	11/29	実習	バランス制御と筋活動の推定(静止肢位)	講義の予習復習を行う
18	11/29	実習	バランス制御と筋活動の推定(静止肢位)	講義の予習復習を行う
19	12/6	実習	起居動作の動作分析 (線画作成が中心)	講義の予習復習を行う
20	12/6	実習	起居動作の動作分析 (関節運動の変化と筋活動の推定)	講義の予習復習を行う
21	12/13	実習	歩行動作を観察・分析し、 レポートにまとめることができる	講義の予習復習を行う
22	12/13	実習	歩行動作を観察・分析し、 レポートにまとめることができる	《レポート提出》
	1/11	試験		
23	1/18	実習	まとめ	講義の予習復習を行う
準備学習 時間外学習	1年次で学習した解剖学・運動学との関連が深いため、より理解を深めるために復習をして運動学実習の講義を受けることが望ましい。			
【使用教科書・教材・参考書】				
基礎運動学 第6版 (医歯薬出版株式会社)				
筋骨格系のキネシオロジー (医歯薬出版株式会社)				
観察による運動・動作分析ノート(医歯薬出版株式会社)				
日常生活活動の分析 (医歯薬出版株式会社)				

科目名 (英)	障害論 (Disability)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	今野 良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 金曜 3,4限
教員の略歴	大学卒業後、病院にて回復期リハビリと介護保険領域のリハビリテーションを経験。専門学校教員としての教務とともに、市区町村からの介護予防委託事業や、理学療法士を対象とした講習会運営などに携わっている。						
授業の学習内容	①リハビリテーション医学における障害について、専門職として必要な要素(用語)や基礎概念を理解する。 ②障害構造の理解に必要な『障害モデル(WHO)』についての課題を実施する。 ③障害に関する社会的トピックについて、グループワークでの意見交換や発表を実施する。						
到達目標	基礎的な社会福祉や障害、広義でのノーマライゼーションを説明できる。						
評価方法と基準	定期試験70%、プレゼンテーション評価30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1/7	講義	「障害」とは何か	【学習ヒント】(使用教科書を参考にする) 「障害」、「障がい」
2	1/7	講義	「障害」の受容	「障害受容」
3	1/14	講義	「障害」にかかわる専門家に求められること	「身体障害者福祉法」 「身体障害者手帳」など
4	1/14	講義	①リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF)	「WHO」、「ICIDH」、「ICF」
5	1/21	講義	②リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF)	意識障害、運動障害、感覚障害
6	1/21	講義	③リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF)	心機能障害、呼吸機能障害、排泄障害
7	1/28	講義	④リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF)	高次脳機能障害
8	1/28	講義	⑤リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF)	心理障害、発達障害、廃用症候群
9	2/4	講義	①ノーマライゼーションについて	ノーマライゼーション
10	2/4	講義	②ノーマライゼーションについて	ノーマライゼーション
11	2/18	講義	グループワーク① プレゼンテーション準備	プレゼン準備
12	2/18	講義	グループワーク② プレゼンテーション準備	プレゼン準備
13	2/25	講義	プレゼンテーション①	プレゼン準備、反省
14	2/25	講義	プレゼンテーション②	プレゼン準備、反省
15	3/4	講義	プレゼンテーション③	プレゼン準備、反省
	3/4	定期試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
理学療法学テキストⅠ 理学療法概論 神陵文庫 目でみるリハビリテーション医学 東京大学出版社 QOLと理学療法 三輪書店				

科目名 (英)	一般臨床医学 (General Clinical Medicine)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	白木達也
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 水曜 3・4時限
教員の略歴	2010年 東北大学医学部医学科卒業 医師免許取得 仙台赤十字病院、東北大学病院、東北薬科大学病院、仙台市立病院を経て、東北大学病院精神科に勤務。						
授業の学習内容	将来的に医療に関わっていく者として、医科診療の概要を学ぶ そのうち、本校にて別途授業のある診療科を除く 眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科等の基礎知識・検査・主な疾患等について学習する						
到達目標	医科診療の概要、眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科等の基礎知識・検査・主な疾患等を理解する						
評価方法及び基準	定期試験(筆記) 100% ※レポートを含む場合あり						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/29	講義	一般的に使用する用語について説明できる	資料配布
2	7/6	講義	救急医療・外科の概要について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
3	7/6	講義	脳神経外科の概要について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
4	7/13	講義	皮膚科疾患(1)について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
5	7/13	講義	皮膚科疾患(2)について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
6	7/20	講義	免疫・アレルギーについて述べることができる	資料配布
7	7/20	講義	泌尿器科(1)について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
8	7/21	講義	泌尿器科(2)について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
9	7/21	講義	産婦人科(1)について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
10	7/28	講義	産婦人科(2)について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
11	7/28	講義	眼科疾患(1)について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
12	9/1	講義	眼科疾患(2)について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
13	9/1	講義	耳鼻咽喉科疾患(1)について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
14	9/8	講義	耳鼻咽喉科疾患(2)について述べることができる	指定教科書該当ページの予読
15	9/8	講義	総括、試験解説	全範囲の復習を行う事
16	9/7		試験	
準備学習 時間外学習		授業前後で、該当分野の範囲を教科書中心に確認すること		
【使用教科書・教材・参考書】 □ 一般臨床医学・第3版(医歯薬出版株式会社) および 模型等の提示				

科目名 (英)	整形外科学 (Orthopedic Surgery)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	藤田涼
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜 3・4時限
学科・コース	理学療法科 I 部						
教員の略歴	整形外科医 臨床場面で経験に加え専門学校の非常勤講師として整形外科学の講義を担当する						
授業の学習内容	国家試験に合格し、理学療法士として実臨床に臨む上で、整形外科学は必須の学習項目である。超高齢社会となった本邦においては、高齢者の運動器疾患が増加しており、理学療法における運動器疾患のウエイトは大きなものである。本講義を受ける学生には、社会貢献ができる理学療法士になることを期待している。本講義では、国家試験対策はもちろん、実臨床で役立つ知識を身に付けることを目標とし、現場の生きた経験に基づく講義を行う予定である。						
到達目標	①本邦における運動器疾患に対する理学療法的重要性を理解する。 ②理学療法士国家試験に合格しうる十分な知識を習得する。 ③実臨床で役立つ知識や考え方を身に付ける。 ④運動器に対する学問的興味を深め、学問の発展の重要性と、それに寄与する研究活動の重要性を理解する。						
評価方法と基準	定期試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/30	講義	整形外科総論を説明できる	講義プリントの復習
2	8/30	講義	各種検査治療法の概要を説明できる	講義プリントの復習
3	9/6	講義	骨折総論を説明できる	講義プリントの復習
4	9/6	講義	上肢骨折を述べることができる	講義プリントの復習
5	9/13	講義	体幹骨折を述べることができる	講義プリントの復習
6	9/13	講義	下肢骨折を述べることができる	講義プリントの復習
7	9/27	講義	骨軟部腫瘍①を述べることができる	講義プリントの復習
8	9/27	講義	骨軟部腫瘍②を述べることができる	講義プリントの復習
9	10/11	講義	神経筋疾患を述べることができる	講義プリントの復習
10	10/11	講義	感染症を述べることができる	講義プリントの復習
11	10/18	講義	変形性関節症を述べることができる	講義プリントの復習
12	10/18	講義	リウマチ類縁疾患を述べることができる	講義プリントの復習
13	10/25	講義	先天性・骨系統・代謝性疾患①を述べることができる	講義プリントの復習
14	10/25	講義	先天性・骨系統・代謝性疾患②を述べることができる	講義プリントの復習
15	11/1	講義	先天性・骨系統・代謝性疾患③を述べることができる	講義プリントの復習
16	11/1	講義	先天性・骨系統・代謝性疾患④を述べることができる	講義プリントの復習
17	11/8	講義	脊髄損傷を説明できる	講義プリントの復習
18	11/8	講義	頸椎・頭部を説明できる	講義プリントの復習
	11/15	試験	前期試験	
19	11/15	講義	胸腰椎部位を説明できる	講義プリントの復習
20	11/15	講義	末梢神経を説明できる	講義プリントの復習
21	11/22	講義	肩関節疾患を説明できる	講義プリントの復習
22	11/22	講義	肘関節疾患を説明できる	講義プリントの復習
23	11/29	講義	手関節疾患を述べることができる	講義プリントの復習
24	11/29	講義	股関節疾患を述べることができる	講義プリントの復習
25	12/6	講義	膝関節疾患を述べることができる	講義プリントの復習
26	12/6	講義	足関節・足部疾患を述べることができる	講義プリントの復習
27	12/13	講義	骨端症①を述べることができる	講義プリントの復習
28	12/13	講義	骨端症②を述べることができる	講義プリントの復習
29	1/24	講義	総括	講義プリントの復習
30	1/24	講義	総括	講義プリントの復習
	1/17	試験	後期試験	
準備学習 時間外学習		毎回配布される講義資料と教科書対応ページの復習が必要		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
標準整形外科学 第13版(医学書院)				

科目名 (英)	神経内科学 (Neurology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	坂部貢
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	曜日・時限 通年
教員の略歴	医師免許取得、現在大学医学部の教授を兼任しつつ、医学部長を務める。						
授業の学習内容	理学療法士に必要な神経内科学について実際の症例等を交えながら教授する。						
到達目標	理学療法士に必要な知識として、神経の特徴および疾患について理解する。同時に、神経内科学を理解することで理学療法に繋げることを目標とする。						
評価方法と基準	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/10	講義	神経内科を理解するために必要な基礎知識について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
2	5/10	講義	神経系の構造と機能について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
3	5/17	講義	神経学的診断の意義について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
4	5/17	講義	神経学的診断の実際について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
5	5/24	講義	病歴と障害歴の聴取方法について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
6	5/24	講義	神経学的診察の手順について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
7	1/8	講義	意識障害について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
8	1/8	講義	神経症候学の基礎について理解する①頭痛やめまいなど	事前配布資料を読んでおくこと
9	1/15	講義	神経症候学の基礎について理解する②感覚障害など	事前配布資料を読んでおくこと
10	1/15	講義	神経症候学の基礎について理解する③失語症・失認など	事前配布資料を読んでおくこと
11	1/22	講義	画像診断の基礎について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
12	1/22	講義	高次機能障害について理解する①	事前配布資料を読んでおくこと
13	1/29	講義	高次機能障害について理解する②	事前配布資料を読んでおくこと
14	1/29	講義	構音・嚥下障害について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
15	2/5	講義	脳神経外科学の疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
16	2/5	講義	脳血管障害の診察・診断について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
17	2/12	講義	脳出血について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
18	2/12	講義	脳梗塞について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
19	2/19	講義	脳腫瘍について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
20	2/19	講義	認知症について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
21	2/26	講義	脊髄疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
22	2/26	講義	錐体外路の変性疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
23	3/5	講義	パーキンソン病について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
24	3/5	講義	その他中枢神経系疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
25	3/12	講義	成人と小児に共通した神経疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
26	3/12	講義	てんかんについて理解する	事前配布資料を読んでおくこと
27	3/19	講義	多発性硬化症について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
28	3/19	講義	神経系の感染症について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
29	3/26	講義	その他神経内科学的疾患について理解する①	事前配布資料を読んでおくこと
30	3/26	講義	その他神経内科学的疾患について理解する②	事前配布資料を読んでおくこと
		試験		
準備学習 時間外学習		講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり		
【使用教科書・教材・参考書】 □ 病気がみえる VOL.7 脳・神経 2版(メディックメディア)				

科目名 (英)	小児科学 (pediatrics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	坂部貢
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
教員の略歴	医師免許取得、現在大学医学部の教授を兼任しつつ、医学部長を務める。						
授業の学習内容	小児の身体的特徴および疾患について理学療法士に必要な知識を教授する。						
到達目標	理学療法士に必要な知識として、小児の特徴および疾患について理解する。同時に、小児についてのリハビリテーションについて理解することを目標とする。						
評価方法と基準	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	講義	成長と発達について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
2	4/9	講義	先天異常について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
3	4/12	講義	小児の消化器系疾患について理解する①	事前配布プリントを読んでおくこと
4	4/12	講義	小児の消化器系疾患について理解する②	事前配布プリントを読んでおくこと
5	4/13	講義	小児の呼吸器疾患について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
6	4/19	講義	小児の循環器疾患について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
7	4/19	講義	小児の感染症について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
8	4/20	講義	小児の内分泌代謝疾患について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
9	4/20	講義	障害児について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
10	4/26	講義	重大な結果を招くリスクのある疾患について理解する①	事前配布プリントを読んでおくこと
11	5/7	講義	重大な結果を招くリスクのある疾患について理解する②	事前配布プリントを読んでおくこと
12	5/7	講義	小児症候学:よく見られる症状を述べる①	事前配布プリントを読んでおくこと
13	5/11	講義	小児症候学:よく見られる症状を述べる②	事前配布プリントを読んでおくこと
14	5/19	講義	小児症候学:よく見られる症状を述べる③	事前配布プリントを読んでおくこと
15	5/19	講義	まとめ	事前配布プリントを読んでおくこと
		試験		
準備学習 時間外学習		講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版 (医学書院)				

科目名 (英)	理学療法評価学Ⅲ (Evaluation of PT Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	菅野友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
教員の略歴	急性期心臓リハビリテーションの業務に理学療法士として計8年勤務						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価学 I と II の内容を復習し知識の定着を図る。 ・基本的な理学療法評価を実践する。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①授業内容が座学、実技に関わらず、復習を必ず行う。 ②代表的な理学療法評価の方法や関連する知識を憶え、実技をできるようになる。 ③国家試験の「評価学」の問題を60%程度正答できるようになる。 						
評価方法と基準	1) 定期試験50% 2) 実技テスト50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/6	講義・演習	オリエンテーション 評価の流れを説明することができる	教科書2～14ページ、 272～277ページを予習する
2	4/6	講義・演習	痛みの評価、知覚検査を行う事ができる	教科書117～130ページを予習する
3	4/13	講義・演習	深部腱反射、病的反射を実践できる	教科書131～144ページを予習する
4	4/13	講義・演習	深部腱反射、病的反射を実践できる	教科書131～144ページを予習する
5	4/20	講義・演習	筋緊張検査を実践できる	教科書151～158ページを予習する
6	4/20	講義・演習	筋緊張検査を実践できる	教科書151～158ページを予習する
7	4/27	講義・演習	協調性検査を実践できる	教科書251～258ページを予習する
8	4/27	講義・演習	片麻痺機能検査を実践できる	教科書259～287ページを予習する
9	5/11	講義・演習	片麻痺機能検査を実践できる	教科書259～288ページを予習する
10	5/11	講義・演習	姿勢反射検査を実践できる バランス検査を実践できる	教科書145～150、 235～250ページを予習する
11	5/18	講義・演習	運動発達検査、高次脳機能検査を説明できる	教科書217～234、299～306ページを予習する
12	5/18	講義・演習	呼吸・循環・代謝機能検査を説明できる	教科書315～333ページを予習する
13	5/25	講義・演習	呼吸・循環・代謝機能検査を説明できる	教科書315～333ページを予習する
14	5/25	講義・演習	姿勢・動作を観察し文章で表現できる	教科書243～251ページを予習する
	5/29	実技試験		実技練習を行う事
	6/1	筆記試験		全範囲の復習を行う事
15	6/8	まとめ		全範囲の復習を行う事
準備学習 時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】 □ 【準備物】 KC、評価道具

①理学療法評価学(第6版) ②新・徒手筋力検査法 ③ベッドサイドの神経の診かた 他

科目名 (英)	理学療法評価学実習 I (Physical therapy evaluation clinical practicum)	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	2	担当教員	塚野智史
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	通年 曜日・時間 火1-2限
教員の略歴	急性期病棟(脳外科、整形外科、呼吸器科、循環器科、外科、等)、回復期病棟、通所リハビリテーションに理学療法士として計12年勤務。						
授業の学習内容	<p>①理学療法は評価に始まり評価に終わると言われている。適切な治療を提供する上で、信頼性のある評価技術や統合と解釈能力は絶対条件である。</p> <p>②評価学Ⅰ～Ⅲで学習したものを(形態測定法、関節可動域検査法、徒手筋力検査法、反射検査、感覚検査など)を実際に体験しながら深い理解につなげる。統合と解釈には様々な知識が必要となる。</p> <p>③自信がつくまで反復練習を重ねて欲しい。自分の身体の動かし方を覚えて欲しい。</p> <p>授業では技術の確認だけでなく、統合と解釈につなげるための基礎知識を復習していく。 各評価をつなげ統合と解釈の仕方を理解し、問題点抽出までを学ぶ。 健康老人の評価体験やOSCE2(実技試験)を通して準備と対策を踏まえ技術を身につける。</p>						
到達目標	<p>①理学療法評価学における代表的な検査、測定法を習得する。</p> <p>②目的に応じた評価項目を想起でき、かつそれを実施することができるようになる。</p> <p>③評価した数値や内容の意味を理解し、各評価をつなげ統合と解釈できるようになる。</p>						
評価方法と基準	<p>1) 定期試験 50%</p> <p>2) 実技試験 50%</p>						

服装

ユニホーム

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/8	実習	可動域変化させる筋の影響を推測できる。	ROM測定復習(軸や角度の暗記)
2	6/15	実習	ROM計測の精度を増して実施できる。	ROM測定復習(軸や角度の暗記)
3	6/15	実習	関節の遊びの確認、アライメントを理解できる。ROMの制限因子を病態と関連付けられることができる。	形態計測復習 関節の構造復習
4	6/22	実習	形態計測・アライメント・モビリティ検査を実践できる。	形態計測復習
5	6/22	実習	筋の厚み・角度などから筋力低下を予測できる。	MMT復習(グレード手技・代償など)
6	6/29	実習	筋力計測の精度を増して実施できる。	MMT復習(グレード手技・代償など)
7	6/29	実習	整形外科の疾患名・経過・禁忌などから必要検査項目を抽出できる。	整形外科テストの復習
8	7/6	実習	整形疾患の検査項目を実施できる。	整形外科テストの復習
9	7/6	実習	筋出力を変化させる因子(協調性・知覚循環・麻痺・筋緊張など)を理解できる。	協調性、感覚、筋緊張の復習
10	7/13	実習	協調性、感覚、筋緊張の検査が実践できる。	協調性、感覚、筋緊張の復習
11	7/13	実習	姿勢を変化させる因子を学び、姿勢から変化する評価項目を考えることができる。	講義の復習
12	7/20	実習	線画で姿勢を表現できる。	講義の復習
13	7/20	実習	動作を変化させる因子を学び、姿勢との関連を考えることができる。	講義の復習
14	7/27	実習	姿勢分析が実践できる。	講義の復習
15	7/27	実習	バランスに影響する評価項目を挙げられる。	配布文献「バランス機能」を熟読
16	8/31	実習	バランステストが実践できる。	講義の復習
17	8/31	実習	問診～評価までを体験する。	講義の復習
18	9/7	実習	問診～評価までを実践できる。	講義の復習
19	9/7	実習	健常者での評価を実践できる。	講義の復習
20	9/14	実習	レポート作成を通し、情報の処理の仕方を実践できる。	レポート作成(症例報告形式)
21	9/14	実習	中枢神経疾患の評価項目を挙げることができる。	ブルンストロームステージ復習
22	9/21	実習	中枢神経疾患の運動機能の基本的な検査が実施できる。	ブルンストロームステージ復習
	9/28	本試験		
23	10/5	発表	レポート内容のプレゼンテーションが実施できる。質疑応答に対応できる。	(発表後レポート提出)
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】資料配布 ①標準理学療法評価学 ②新・徒手筋力検査法 参考:基礎運動学(医歯薬)、機能的解剖的触診技術(メジカルビュー)、ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) 服装はKCとする				

科目名 (英)	運動療法学 I (Movement Therapy I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 金曜
教員の略歴	理学療法士として急性期心臓リハビリテーションの業務に8年間従事						
授業の学習内容	①国家試験・臨床実習で重要な運動療法に関わる基礎知識を学習するため。 ②解剖学、生理学、運動学との関連性を理解する。 ③予習、復習を行い、基本的な運動療法の知識を身につける。						
到達目標	①基本的運動療法技術における医学的根拠を理解し、説明できること。 ②体系的な基本的運動療法の方法論を学び、演習を交えて健常者同士で安全に実技体験が出来るようになること。 ③この分野の国家試験の過去問を解くことができる						
評価方法と基準	1) 定期試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/18	講義	第1章 運動療法の概念 I. 運動療法について	学習内容の復習を行うこと
2	6/18	講義	第2章 運動療法の基礎 I. 関節の構造と運動	学習内容の復習を行うこと
3	6/25	講義	第2章 運動療法の基礎 II. 筋と筋収縮を説明	学習内容の復習を行うこと
4	6/25	講義	第2章 運動療法の基礎 III. 随意運動と運動制御モデル	学習内容の復習を行うこと
5	7/2	講義	第2章 運動療法の基礎 IV. 運動制御と運動学習	学習内容の復習を行うこと
6	7/2	講義	第2章 運動療法の基礎 V. 運動と呼吸	学習内容の復習を行うこと
7	7/9	講義	第2章 運動療法の基礎 VI. 運動と循環	学習内容の復習を行うこと
8	7/9	講義	第2章 運動療法の基礎 VII. 運動と代謝	学習内容の復習を行うこと
9	7/16	講義	第3章 組織の病態生理と修復 I. 運動器系	学習内容の復習を行うこと
10	7/16	講義	第3章 組織の病態生理と修復 II. 神経系	学習内容の復習を行うこと
11	7/30	講義	第4章 A. 運動を引き起こす力による分類	学習内容の復習を行うこと
12	7/30	講義	全体のまとめ	学習内容の復習を行うこと
13	9/9	講義	全体のまとめ	学習内容の復習を行うこと
14	9/9	講義	全体のまとめ	学習内容の復習を行うこと
15	9/15	試験		
16	9/16	試験解説		学習内容の復習を行うこと
準備学習 時間外学習		毎回の講義の予習と復習を行う事		
【使用教科書・教材・参考書】				
標準理学療法学 運動療法学総論 第4版(医学書院)				

科目名 (英)	運動療法学実習 I (Practice of Movement Therapy I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	金曜 4・5時限
教員の経歴	理学療法士として急性期心臓リハビリテーションの業務に8年間従事						
授業の学習内容	①疾患別に病態を理解し、その治療と関連する運動療法の概略を理解すること ②運動療法学 I・II、解剖学、生理学、運動学、理学療法評価学、等に関連する運動療法の概略を学ぶこと						
到達目標	①各疾患の病態を理解し、それに対する基本的な理学療法、運動療法を理解し、説明できる ②簡単な運動療法を学生同士で実施できる ③この分野の国家試験の過去問を解くことができる						
評価方法と基準	1) 定期試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/1	実習	呼吸器疾患の病態を理解し 簡単な運動療法を実施できる	学習内容の復習を行うこと
2	10/1	実習	呼吸器疾患の病態を理解し 簡単な運動療法を実施できる	学習内容の復習を行うこと
3	10/8	実習	胸腹部外科術後の病態と運動療法を理解する 早期離床の意義とリスク管理を理解する	学習内容の復習を行うこと
4	10/8	実習	胸腹部外科術後の病態と運動療法を理解する 早期離床の意義とリスク管理を理解する	学習内容の復習を行うこと
5	10/15	実習	人工呼吸器装着下での運動療法を理解する 早期離床の意義とリスク管理を理解する	学習内容の復習を行うこと
6	10/15	実習	人工呼吸器装着下での運動療法を理解する 早期離床の意義とリスク管理を理解する	学習内容の復習を行うこと
7	10/22	実習	循環器疾患の病態を理解し 簡単な運動療法を実施できる	学習内容の復習を行うこと
8	10/22	実習	循環器疾患の病態を理解し 簡単な運動療法を実施できる	学習内容の復習を行うこと
9	10/29	実習	運動耐容能評価を理解し実施できる	学習内容の復習を行うこと
10	10/29	実習	運動耐容能評価を理解し実施できる	学習内容の復習を行うこと
11	11/5	実習	糖尿病の運動療法を理解する	学習内容の復習を行うこと
12	11/5	実習	糖尿病の運動療法を理解する	学習内容の復習を行うこと
13	11/12	実習	ICUにおける運動療法を理解する 早期離床の意義とリスク管理を理解する	学習内容の復習を行うこと
14	11/12	実習	ICUにおける運動療法を理解する 早期離床の意義とリスク管理を理解する	学習内容の復習を行うこと
15	11/19	実習	熱傷の運動療法を理解する	学習内容の復習を行うこと
16	11/19	実習	悪性腫瘍の運動療法を理解する	学習内容の復習を行うこと
17	11/26	実習	廃用症候群の病態と運動療法を理解し 簡単な運動療法を実施できる	学習内容の復習を行うこと
18	11/26	実習	廃用症候群の病態と運動療法を理解し 簡単な運動療法を実施できる	学習内容の復習を行うこと
19	12/3	実習	浮腫の運動療法を理解する	学習内容の復習を行うこと
20	12/3	実習	総まとめ	学習内容の復習を行うこと
21	12/6	試験		
22	12/10	試験の解説	総まとめ	学習内容の復習を行うこと
23	12/10	実習	総まとめ	学習内容の復習を行うこと
24	12/17	実習	総まとめ	学習内容の復習を行うこと
準備学習 時間外学習		授業前後で、該当分野の範囲を教科書中心に確認すること		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
標準理学療法学 運動療法学各論 第4版(医学書院)				

科目名 (英)	運動療法学Ⅱ (Movement Therapy Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	丸屋 健
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義・ 実技	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前後期 金曜 3限
教員の略歴	2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務。 2017年5月～高齢者の健康増進教室。						
授業の学習内容	理学療法介入において大きな柱として位置づけられている運動療法は、解剖学や生理学、運動学を基礎とし、理学療法士が得意とする領域である。各単元の前半では必要な生物医学側面と社会科学的側面の両面からみた必要な基礎知識を確認した上で、運動療法の基本手技を学んでいく。2年次後期に予定されている運動療法学実習への移行が円滑に行なわれるよう、講義内でも随時実技での体験をしていく。						
到達目標	①運動療法の歴史、基本的概念について学ぶ。 ②身体の構造と機能への理解を深め、運動療法構築への概念を学習する。 ③講義内容に応じて実施される単元テストを活用し、該当する単元の要点を説明できる。 ④講義内容に応じた基本的運動療法技術を健常者同士で一部体験する。						
評価方法と基準	・レポート:20% ・筆記試験:80%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/18	講義	・オリエンテーション 運動療法の歴史、運動療法の位置づけを理解する。	講義の復習を行う事
2	6/25	講義	①運動の種類(分類)について文章表現できる。	講義の復習を行う事
3	7/2	講義	《単元テスト》運動の種類(分類) ②関節可動域運動(関節包内運動)について文章表現できる。	講義の復習を行う事
4	7/9	講義	②関節可動域運動(関節包外運動)について文章表現できる。	講義の復習を行う事
5	7/16	講義	《単元テスト》関節可動域運動 ③筋力増強運動(概念)について理解できる。	講義の復習を行う事
6	7/30	講義	③筋力増強運動(原理・原則、方法論)について文章表現ができる。	講義の復習を行う事
7	9/3	講義	《単元テスト》筋力増強運動 ④持久力増強運動(概念)について説明できる。	講義の復習を行う事
8	9/10	講義	④持久力増強運動(実践例の紹介)の理解ができる。 ⑤協調性運動(概念)についての説明できる。	講義の復習を行う事
9	9/17	講義	《単元テスト》持久力運動・協調性運動 ⑤協調性運動(協調性運動の実際)の説明できる。	講義の復習を行う事
10	9/24	講義	⑥脳のシステム障害と運動療法について説明できる。	講義の復習を行う事
11	10/1	講義	⑥脳のシステム障害と運動療法について説明できる。	講義の復習を行う事
12	10/8	講義	⑦痛みに対する運動療法について説明できる。	講義の復習を行う事
13	10/15	講義	⑦痛みに対する運動療法について説明できる。	講義の復習を行う事
14	10/22	講義	《単元テスト》単元⑥・⑦の内容 《単元》⑧発達と運動療法	講義の復習を行う事
	10/29	筆記試験		
15	11/5	講義	総括	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習			・予習と復習:教材と授業ノート並びに単元テストを活用すること。 ・同学年に履修する運動療法学実習の基礎となる知識であり、運動実践における注意点を特によく理解するように努めること。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第4版 (医学書院)				

科目名 (英)	運動療法学実習Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	塚野
	(Practice of Movement TherapyⅡ)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	水曜 3・4限
学科・コース	理学療法科Ⅰ部						
教員の略歴	急性期病棟(脳外科、整形外科、呼吸器科、循環器科、外科、等)、回復期病棟、通所リハビリテーションに理学療法士として計12年勤務。						
授業の学習内容	疾患別に病態と症状を理解し、運動療法の概略を理解することが必要である。 解剖学・生理学・運動学、運動療法学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識をもとに、疾患別運動療法の概略を理解する。						
到達目標	①運動療法の対象となる疾患について、病態と症状を理解し、文章表現できる。 ②対象となる疾患について、運動療法実施の主目的と注意点について説明できる。 ③授業内容に応じて実施される単元テストを活用し、該当する単元の要点を説明できる。						
評価方法と基準	筆記試験:50% 実技試験:50%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1	10/26	実習	骨折・脱臼の運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
2	10/26	実習	膝の靭帯・半月板損傷の運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
3	11/2	実習	腱断裂の運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
4	11/2	実習	関節リウマチの運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
5	11/9	実習	変形性関節症と人工関節置換術の運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
6	11/9	実習	側弯症の運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
7	11/16	実習	脊髄損傷の運動療法について理解できる①	教科書や配布物にて復習を行うこと			
8	11/16	実習	脊髄損傷の運動療法について理解できる②	教科書や配布物にて復習を行うこと			
9	11/30	実習	腰部脊柱管狭窄症の運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
10	11/30	実習	頚椎性脊髄症と頸椎後縦靭帯骨化症の運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
11	12/7	実習	腰痛症の運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
12	12/7	実習	肩関節痛の運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
13	12/14	実習	切断に対する運動療法について理解できる①	教科書や配布物にて復習を行うこと			
14	12/14	実習	切断に対する運動療法について理解できる②	教科書や配布物にて復習を行うこと			
15	1/11	実習	糖尿病に対する運動療法について理解できる①	教科書や配布物にて復習を行うこと			
16	1/11	実習	糖尿病に対する運動療法について理解できる②	教科書や配布物にて復習を行うこと			
17	1/18	実習	ICUにおける運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
18	1/18	実習	熱傷に対する運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
19	1/25	実習	悪性腫瘍に対する運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
20	1/25	実習	浮腫に対する運動療法について理解できる	教科書や配布物にて復習を行うこと			
21	2/1	実習	廃用症候群の運動療法について理解できる①	教科書や配布物にて復習を行うこと			
22	2/1	実習	廃用症候群の運動療法について理解できる②	教科書や配布物にて復習を行うこと			
23	2/8	実習	総復習	教科書や配布物にて復習を行うこと			
24	2/2	実習	実技試験				
25	2/1	試験	筆記筆記試験				
準備学習 時間外学習			教科書や配布物にて復習を行うこと				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>							
標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 第4版 (医学書院)							

科目名 (英)	物理療法学 (Physical Agents)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古川 雅一
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 木曜 曜日・時限 3・4時限
教員の略歴	2009/4 理学療法士免許取得 2009-2015 一般病院勤務(大阪府) 2015-2017 理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019 青年海外協力隊参加(キルギス) 臨床現場での物理療法の実施および学生や同僚への指導						
授業の学習内容	理学療法士法及び作業療法士法の中で物理的刺激を加えることが理学療法の手段の一つとして記載されている。本授業は講義を中心に行い各物理療法の特徴や実施方法、禁忌事項等に加え、物理療法が適応となる炎症や疼痛、関節可動域制限のメカニズムと物理刺激を加えた際の生理学的変化などについて学ぶ。後期の物理療法学実習にて一定の知識を持ち各機器を使用できるよう本授業にて備える。						
到達目標	物理療法の種類が理解できる 物理療法が適応となることの多い炎症・疼痛・関節可動域制限等の症状において物理刺激を加えた際の生理学的変化が理解できる 各物理療法の特徴や実施手順、禁忌事項等を理解できる						
評価方法と基準	筆記試験(本試験80%、課題レポート20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/8	講義	物理療法の概要とリスク管理が説明できる	指定教科書の予読、課題作成
2	4/8	講義	物理療法が適応となる炎症について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
3	4/15	講義	物理療法が適応となる疼痛について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
4	4/15	講義	物理療法が適応となるROM制限について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
5	4/22	講義	温熱について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
6	4/22	講義	温熱療法の特徴と実施方法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
7	5/6	講義	電磁波について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
8	5/6	講義	超短波療法・極超短波療法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
9	5/13	講義	光線療法の特徴と実施方法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
10	5/13	講義	音波療法の特徴と実施方法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
11	5/20	講義	電気刺激について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
12	5/20	講義	電気刺激療法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
13	5/27	講義	寒冷療法・水治療法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
14	5/27	講義	牽引療法・圧迫療法・振動刺激療法を説明できる	指定教科書の予読、課題作成
	6/10	試験		
15	6/17	講義	テスト解説(総復習)	全範囲の復習を行う
準備学習 時間外学習		指定教科書の予読、課題作成		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
使用教科書: PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版(羊土社)				
参考書: 物理療法学 改定第2版(金原出版)、機能障害科学入門(神陵文庫)、理学療法学テキストIV物理療法 第2版(神陵文庫)				

科目名 (英)	物理療法学実習 (Practice of Physical Agents)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古川雅一
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	前・後期 木曜 3・4時限
教員の略歴	2009年理学療法士免許取得 2009-2010 一般病院勤務(大阪府) 2010-2017理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019青年海外協力隊参加(キルギス) 臨床現場での物理療法の実施および学生や同僚への指導							
授業の学習内容	物理療法学で学んだ知識を基に、それぞれの物理療法機器の取り扱い方法を学びリスク管理を行いながら実際に使用する。							
到達目標	適応・リスク管理を把握しながら物理療法の機器の使用を経験する							
評価方法と基準	試験(80%)、課題レポート(20%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/24	講義	物理療法の適応となる疾患を理解する①	指定教科書該当ページの予読
2	6/24	講義	物理療法の適応となる疾患を理解する②	指定教科書該当ページの予読
3	7/1	講義	物理療法の適応となる疾患を理解する③	指定教科書該当ページの予読
4	7/1	講義	物理刺激の人体への作用を理解する①	指定教科書該当ページの予読
5	7/8	講義	物理刺激の人体への作用を理解する②	指定教科書該当ページの予読
6	7/8	講義	物理刺激の人体への作用を理解する③	指定教科書該当ページの予読
7	7/15	講義	ホットパックの実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
8	7/15	講義	パラフィン浴の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
9	7/29	講義	寒冷療法(クリッカー)の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
10	7/29	講義	水治療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
11	9/2	講義	赤外線療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
12	9/2	講義	極超短波療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
13	9/9	講義	超音波療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
14	9/9	講義	電気刺激療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
15	9/16	講義	牽引療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
16	9/16	実習	ホットパックを実施できる	指定教科書該当ページの予読
17	9/30	実習	パラフィン浴を実施できる	指定教科書該当ページの予読
18	9/30	実習	寒冷療法(クリッカー)を実施できる	指定教科書該当ページの予読
19	10/7	実習	赤外線療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
20	10/7	実習	極超短波療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
21	10/14	実習	超音波療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
22	10/14	実習	電気刺激療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
	10/20	試験		
23	10/21	実習	牽引療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
準備学習 時間外学習		講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
使用教科書:PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版(羊土社)				
参考書:物理療法学 改定第2版(金原出版)、機能障害科学入門(神陵文庫)、理学療法学テキストIV物理療法 第2版(神陵文庫)				

科目名 (英)	日常生活活動学 (Activities of Daily Living)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	石田広
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 金曜 1・2時限
教員の略歴	1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 論文「老人保健施設におけるADL訓練の位置づけ」「椅子に座って食事をしよう」病棟訓練の根拠としてのリハ計画書」他						
授業の学習内容	①日常生活活動についてその概念と成り立ちを理解し理学療法における位置づけを学ぶ。 ②日常生活活動学実習と共に日常生活活動の概要を学び全ての科目と関連があることを理解する。 ③日常生活活動がどのような構成になっているのかを理解し理学療法に取り組むモチベーションにして欲しい。 ④日常生活活動を普遍的に評価できるようになるため概念、定義、具体的評価方法を講義と演習で展開する。						
到達目標	①日常生活活動の定義と概念を説明できるようになる。 ②日常生活活動の各行為を分類し普遍的に評価できるようになる。 ③日常生活活動の各種の評価方法を述べ状況に応じて使用できるようになる。 ④日常生活活動とICFの関係を理解しICFの他の要素と関連づけて説明できるようになる。						
評価方法と基準	定期試験、課題レポート、口頭試問にて知識技能の到達評価を行う。 定期試験50%、授業内レポート30%、口頭試問5%、出席点15%の割合で成績評価を実施する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	講義	日常生活活動の定義が述べられる	プリント学習
2	4/9	講義	日常生活活動の概念が説明できる	プリント学習
3	4/16	演習	食事行為を要素に分類し述べられる	議論、発表プレゼン準備
4	4/16	演習	排泄行為を要素に分類し述べられる	議論、発表プレゼン準備
5	4/23	演習	入浴行為を要素に分類し述べられる	議論、発表プレゼン準備
6	4/23	演習	整容行為を要素に分類し述べられる	議論、発表プレゼン準備
7	4/30	演習	生活関連行為を要素に分類し述べられる	議論、発表プレゼン準備
8	4/30	講義	日常生活活動の実際を概観する	ビデオ教材の視聴とレポート
9	5/7	講義	各種のADL評価方法を使用できる	プリント学習
10	5/7	講義	各種のADL評価方法を使用できる	プリント学習
11	5/14	講義	FIMの評価方法のマニュアルを説明できる	プリント学習
12	5/14	講義	FIMでのADLの評価ができる	プリント学習
13	5/21	講義	姿勢の種類を述べられる	論文抄読
14	5/21	実技	各種の姿勢を実施できる	実技練習
	6/2	定期試験	筆記試験にて実施	
15	6/11	講義	定期試験の解説	レポート作成(誤回答を再確認する)
準備学習 時間外学習		準備学習はテキストを事前に読んでおく。時間外学習は体験したことを自分の体験を重ねてみる。		
【使用教科書・教材・参考書】 □ 日常生活活動学・生活環境学 第5版(医学書院)				

科目名 (英)	日常生活活動学実習 (Activities of daily living science training)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	佐藤美紀
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1単位)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	臨床歴：1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月デイサービス勤務。 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 講師歴：介助法講習会講師。臨床動作分析講習会講師。他						
授業の学習内容	①リハビリテーションの目指す最終目的はQOLの向上である。運動療法だけでは生活の改善に限界がある。それ故、如何に機能を代償し、工夫した動きを獲得し、それを生活に実践できる必要がある。日常生活活動学では機能と生活を結びつけながら、これらの応用を学ぶ。 ②ADLは動作であり、病態運動学が基盤となる。このため、基礎には運動学が不可欠となる。ADLを学ぶことで、評価学・運動療法学を深めて行ける。ADL学の次のステップとして知識を実践するのがADL学実習である。 ③患者とその家族のQOL向上に貢献できるような理学療法を提供できるようになって欲しい。 PTとして治療につながる介助法を身につける。障害の特徴を体験し、動作の評価からADL指導までの実際を学ぶ						
到達目標	起居動作を介助で安全に実施できるようになる。 障害の特徴を押さえた動作を体験した上で、疾患別にADL指導のポイントにそって実施できるようになる。						
評価方法と基準	1)本試験70% 2)実技試験20% 3)服装、授業参加度10% *動きやすい服装						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/31	講義・実技	介助の基本原則を説明できる。	講義の復習を行う
2	8/31	実技	起居動作の一人介助を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
3	9/7	実技	移乗動作の一人介助(車椅子上で姿勢を整えるまで)を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
4	9/7	実技	移乗動作の二人介助を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
5	9/14	実技	三人介助でリフティングを実施できる。	講義の復習を行う
6	9/14	実技	食事介助を健常者で実施できる。	ゼリーとスプーン、飲み物とコップ、タオルを持参
7	9/21	講義・実技	身体変化における動作への影響を説明できる。	講義の復習を行う
8	9/21	実技	身体変化における動作への影響を健常者で調べることができる。	講義の復習を行う
9	9/28	講義・実技	RAの疾患特異性を理解し、関節保護・痛み・生活リズムのADL指導を説明できる。	RAについて調べる
10	9/28	実技	関節保護を意識したADL指導を実施できる。	講義の復習を行う
11	10/5	講義・実技	変形性股関節症の疾患の特異性を理解し、時期に応じた注意点を説明できる。	変形性股関節症・膝関節症について調べる
12	10/5	実技	股脱臼予防をした動作を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
13	10/12	講義・実技	切断の質量変化、義足の限界を理解し、拘縮予防や動き方の注意点を説明できる。	糖尿病からの切断について調べる
14	10/12	実技	義足での安全な動き方を指導できる。	講義の復習を行う
15	10/19	講義・実技	脊髄損傷の損傷レベルの違いによる可能な動きや動作を説明できる。	筋と感覚の髄節レベルについて調べる
16	10/19	実技	レベルごとの動きを実施できる。	講義の復習を行う
17	10/26	講義・実技	片麻痺の特徴を理解し、体性感覚の必要性を説明できる。	脳の部位とその機能について調べる
18	10/26	実技	片麻痺の安全性を重視したADLの仕方を実施できる。	講義の復習を行う
19	11/2	講義・実技	脳性麻痺タイプ別の特徴的な動きを説明できる。	講義の復習を行う
20	11/2	実技	発達における介入の仕方を説明できる。	基本動作の獲得時期について調べる
21	11/9	講義・実技	パーキンソンの特徴的な動きを理解し、転倒対策を説明できる。	パーキンソンの病態を調べる
22	11/9	実技	転倒対策を考慮した立位・歩行、立ち上がりを実施できる。	講義の復習を行う
	11/16	本試験		
23	11/30	講義・演習	FIMの評価を実践できる。問題点でのADLの位置付けを説明できる。	講義の復習を行う

準備学習 時間外学習

【使用教科書・教材・参考書】 □

1-8回は介助法テキスト配布。9-23回は標準理学療法学「日常生活活動学・生活環境学」(医学書院)、ADL実習テキスト配布。

科目名 (英)	義肢装具学 (Prosthetics and Orthotics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 月曜日 曜日・時限 1・2時限
教員の略歴	急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリで勤務を経て現在に至る。						
授業の学習内容	理学療法士のアプローチの一つとして義肢装具の概要を学ぶ。 義肢・装具の構造や特徴、種類、機能を学ぶ。						
到達目標	使用頻度が高い義肢・装具の種類と部品を覚えて説明できるようになる。						
評価方法と基準	筆記試験90%、出席率10%、						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1/17	講義・演習	義肢学総論を理解する	講義の復習を行う
2	1/17	講義・演習	下肢切断の理学療法評価	講義の復習を行う
3	1/24	講義・演習	大腿義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
4	1/24	講義・演習	膝義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
5	1/31	講義・演習	下腿義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
6	1/31	講義・演習	サイム義足・股義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
7	2/7	講義・演習	足部部分義足の種類と適合判定 継手の種類と設定調整を理解する	講義の復習を行う
8	2/7	講義・演習	装具学総論を理解する	講義の復習を行う
9	2/14	講義・演習	脳卒中片麻痺の装具を理解する①	講義の復習を行う
10	2/14	講義・演習	脳卒中片麻痺の装具を理解する②	講義の復習を行う
11	2/21	講義・演習	対麻痺の装具を理解する①	講義の復習を行う
12	2/21	講義・演習	対麻痺の装具を理解する②	講義の復習を行う
13	2/28	講義・演習	整形外科的装具を理解する	講義の復習を行う
14	2/28	講義・演習	末梢神経障害の装具を理解する	講義の復習を行う
15	3/7	講義・演習	車椅子・杖の構造、適応を理解する	講義の復習を行う
	3/7	試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習		講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学異常とその対応がわかる動画付き(羊土社) その他備品の義肢装具の資料使用				

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅰ・整形外科疾患	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	茂呂 行哲
	(Orthopedic Disease)	授業 形態	講義・実 技	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期
学科・コース	理学療法科Ⅰ部						
教員の略歴	2012年4月～2015年3月まで介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月まで整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。2019年6月～訪問看護ステーション訪問リハビリ。						
授業の学習内容	整形外科疾患に対する臨床推論過程の例を示し、理学療法の考え方、捉え方について学ぶ。 ・整形外科疾患の病態 ・整形外科疾患に対する理学療法評価(実技含む) ・整形外科疾患に対するアプローチ(実技含む) をそれぞれ身につける。						
到達目標	整形外科疾患の病態、各疾患に対する理学療法の考え方、捉え方を理解し、実施することができる。 臨床評価実習における整形外科疾患に対するイメージを身につけることができる。						
評価方法と基準	1)筆記試験:80% 2)実技試験:20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/1	講義・実技	オリエンテーション	組織再生・修復についての復習
2	10/1	講義・実技	組織再生・修復の過程を理解できる。	組織再生・修復についての復習
3	10/8	講義・実技	骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	骨折と脱臼についての復習
4	10/8	講義・実技	骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	骨折と脱臼についての復習
5	10/15	講義・実技	骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	変形性関節症についての復習
6	10/15	講義・実技	骨折と脱臼、変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	変形性関節症についての復習
7	10/22	講義・実技	変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	変形性関節症についての復習
8	10/22	講義・実技	変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	変形性関節症についての復習
9	10/29	講義・実技	人工関節の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	人工関節についての復習
10	10/29	講義・実技	人工関節の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	人工関節についての復習
11	11/5	講義・実技	関節リウマチの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	関節リウマチについての復習
12	11/5	講義・実技	関節リウマチの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	関節リウマチについての復習
13	11/12	講義・実技	末梢神経損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	末梢神経損傷についての復習
14	11/12	講義・実技	末梢神経損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	末梢神経損傷についての復習
15	11/19	講義・実技	頸部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	頸部疾患についての復習
16	11/19	講義・実技	頸部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	頸部疾患についての復習
17	11/26	講義・実技	腰部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	腰部疾患についての復習
18	11/26	講義・実技	腰部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	腰部疾患についての復習
19	12/3	講義・実技	肩関節周囲炎の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
20	12/3	講義・実技	肩関節周囲炎の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
21	12/10	講義・実技	腱板断裂、肩関節脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
22	12/10	講義・実技	腱板断裂、肩関節脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
23	12/17	講義・実技	膝関節靭帯損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	膝関節疾患についての復習
24	12/17	講義・実技	膝関節靭帯損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	膝関節疾患についての復習
25	1/7	講義・実技	捻挫と肉離れの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	足関節靭帯損傷、筋損傷についての復習
26	1/7	講義・実技	捻挫と肉離れの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	足関節靭帯損傷、筋損傷についての復習
27	1/14	講義・実技	学習内容の総復習を行う。	捻挫と肉離れについての復習
28	1/14	講義・実技	学習内容の総復習を行う。	捻挫と肉離れについての復習
	1/21	本試験		
29	1/28	講義・実技	試験解説を行う。	これまでの総復習
30	1/28	講義・実技	カリキュラムの総まとめを行う。	これまでの総復習
準備学習 時間外学習		各学習内容の予習・復習を行う		
【使用教科書・教材・参考書】 〇				
「病気がみえるvol.11運動器・整形外科」(MEDIC MEDIA)、「運動器機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略」(医学書院)、資料随時				

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅱ・中枢神経疾患 (Central Nerve Disease)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	塚野智史
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日 1-2限目
教員の略歴	急性期病棟(脳外科、整形外科、呼吸器科、循環器科、外科、等)、回復期病棟、通所リハビリテーションに理学療法士として計12年勤務。						
授業の学習内容	ヒトという動物のなかで最も特徴的な器官である「脳」を対象としているため難解に思われる中枢PTであるが、中枢性運動障害を改善するための根拠や、基本的な概念、必要な関連知識を交えて理解することで、臨床でのトレーニングの意義や目的を学生自身が考えることが可能となるような講義である。						
到達目標	中枢神経疾患に対する理学療法技術と理論を学び、概要を説明できるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期試験100%。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/12	講義	中枢神経系の構造と生理を説明できる	講義の復習を行う事
2	4/12	講義	中枢神経系の構造と生理を説明できる	講義の復習を行う事
3	4/19	講義	中枢神経系の構造と生理を説明できる	講義の復習を行う事
4	4/19	講義	脳卒中の病態とリスク管理を説明できる	講義の復習を行う事
5	4/26	講義	脳卒中の病態とリスク管理を説明できる	講義の復習を行う事
6	4/26	講義	脳卒中の病態とリスク管理を説明できる	講義の復習を行う事
7	5/10	講義	脳画像と各種経路を説明できる	講義の復習を行う事
8	5/10	講義	脳画像と各種経路を説明できる	講義の復習を行う事
9	5/17	講義	脳画像と各種経路を説明できる	講義の復習を行う事
10	5/17	講義	脳卒中の回復メカニズムを説明できる	講義の復習を行う事
11	5/24	講義	脳卒中の回復メカニズムを説明できる	講義の復習を行う事
12	5/24	講義	脳卒中の回復メカニズムを説明できる	講義の復習を行う事
13	5/31	講義	脳卒中の障害構造を説明できる	講義の復習を行う事
14	5/31	講義	脳卒中の障害構造を説明できる	講義の復習を行う事
15	6/14	講義	脳卒中の障害構造を説明できる	講義の復習を行う事
16	6/14	講義	意識障害について説明できる	講義の復習を行う事
17	6/21	講義	運動麻痺について説明できる	講義の復習を行う事
18	6/21	講義	運動麻痺について説明できる	講義の復習を行う事
19	6/28	講義	運動麻痺について説明できる	講義の復習を行う事
20	6/28	講義	感覚障害について説明できる	講義の復習を行う事
21	7/5	講義	感覚障害について説明できる	講義の復習を行う事
22	7/5	講義	異常筋緊張について説明できる	講義の復習を行う事
23	7/12	講義	異常筋緊張について説明できる	講義の復習を行う事
24	7/12	講義	運動失調について説明できる	講義の復習を行う事
25	7/19	講義	運動失調について説明できる	講義の復習を行う事
26	7/19	講義	身体失認、半側空間無視を説明できる	講義の復習を行う事
27	7/26	講義	痛みについて説明できる	講義の復習を行う事
28	7/26	講義	姿勢定位障害、姿勢バランス障害を説明できる	講義の復習を行う事
	7/26	試験		
29	7/27	講義	起居動作障害について説明できる	講義の復習を行う事
30	8/30	講義	歩行障害について説明できる	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
医療情報科学研究所eds.病気が見える Vol7.MEDIC MEDIA 2017 原寛美,吉尾雅春eds.脳卒中理学療法の理論と技術.2019.MEDICAL VIEW				

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅳ・小児期疾患 (Childhood disease)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	佐藤美紀
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期 水(3・4 限)
教員の略歴	臨床歴:1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月デイサービス勤務。 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 講師歴:介助法講師。臨床動作分析講習会講師。他						
授業の学習内容	小児期疾患に対する理学療法評価・治療について体験を通して学習する。 (ハンドリング・ポジショニングなど他の疾患でも応用できる技術を体験する)						
到達目標	発達における小児の特性、各疾患の病態(禁忌や予後も含む)を理解できるようになる。 ①発達年齢を判定できる ②CPのタイプを判定できるようになる ③各疾患の特徴から、評価の目的を明確にできる ④発達年齢に応じた治療を選択できる						
評価方法と基準	本試験80% 平常点20%(授業内参加度、出席率) *ただし、本試験が60点を満たない場合は、そのほかで点数があっても再試となります。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月21日	講義/演習	小児期疾患の特徴を理解する	講義の復習
2	4月21日	講義/演習	正常発達を月齢ごとに理解する。原始反射、姿勢反射と運動の発達の関係を言	人間発達学の復習
3	4月28日	講義/演習	解剖学的構造や数値を理解し、小児期疾患のリスク確認ができる	人間発達学の復習
4	4月28日	演習	発達の評価により、発達年齢を判定できる	人間発達学の復習
5	5月12日	講義/演習	整形外科的な視点から成長と運動療法の関係を述べることができる	股関節の運動学の復習
6	5月12日	講義/演習	整形外科疾患の評価とその目的を言える	脊柱の運動学の復習
7	5月26日	演習	小児の義肢装具を考える	義肢装具学の復習
8	5月26日	講義/演習	CPの種類を判別ができるようになる その病態と特徴をいうことができる	CPの復習
9	6月9日	講義/演習	痙直型CPの評価とその目的を言える	CPの復習
10	6月9日	講義/演習	その他のCPの評価とその目的を言える	CPの復習
11	6月23日	演習	発達年齢に応じたCPの治療を考える	CPの復習
12	6月23日	講義/演習	二分脊椎の評価とその目的を言える 装具や運動を考えることができる	下肢の筋の髄節レベルの復習
13	6月30日	講義/演習	筋ジストロフィーの評価とその目的を言える	筋ジストロフィーの復習
14	6月30日	講義/演習	発達障害の分類を言える。 低緊張の特徴に応じた治療を考える	発達障害の復習
15	7月14日	本試験		
16	7月28日	講義/演習	まとめ・復習	全範囲の復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
資料配布十人間発達学、評価学、運動療法学、ADL、小児科学、運動学、義肢装具学				

科目名 (英)	地域理学療法学 (Community PT)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	石田広
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 月3-4限
教員の略歴	1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 論文「老人保健施設におけるADL訓練の位置づけ」「椅子に座って食事をしよう」「病棟訓練の根拠としてのリハ計画書」他						
授業の学習内容	地域で生活している高齢者や障がい者の生活を支援するため、関係法規や支援技術・知識を学び、その背景も理解する。地域生活は日本が抱える社会問題とも関わりが深いいため、日本の政治経済にも関心を持てるようになってもらい、在宅生活支援を実践する理学療法士と						
到達目標	地域理学療法概念・背景・関連法規について理解し説明できる。 地域で生活する高齢者や障がい者のリハビリ提供システムを理解し説明できる。 地域支援におけるケアマネジメント機能を理解し説明できる。 地域包括ケアシステムについて理解し説明できる。						
評価方法と基準	定期テスト100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/31	講義	地域理学療法概論	復習を行う事
2	5/31	講義	①地域包括ケアシステムについて理解す	復習を行う事
3	6/14	講義	②地域包括ケアシステムについて理解す	復習を行う事
4	6/14	講義	介護保険制度制定の背景と仕組みについて理解する	復習を行う事
5	6/21	講義	地域包括支援センターの役割について理解す	復習を行う事
6	6/21	講義	①介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する	復習を行う事
7	6/28	講義	②介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する	復習を行う事
8	6/28	講義	③介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する	復習を行う事
9	7/5	講義	①医療保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する	復習を行う事
10	7/5	講義	②医療保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する	復習を行う事
11	7/12	講義	地域リハビリテーションニーズについて理解す	復習を行う事
12	7/12	講義	地域における健康増進・介護予防について学習する	復習を行う事
13	7/26	講義	障がい者福祉と地域理学療法について理解する	復習を行う事
14	7/26	講義	地域でのリハビリテーションにおける課題についてグループワークで検討する	復習を行う事
15	9/16	試験		
16	9/16	講義	試験解答を説明する事ができる	復習を行う事
準備学習 時間外学習			各回毎に必要と考える運動学の知識を事前に確認し、終了後は復習をすること	
【使用教科書・教材・参考書】				
理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト7 地域理学療法学 (メジカルビュー社)				

科目名 (英)	地域理学療法学 (Community PT)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	石田広
学科・コース	理学療法科1部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 月3-4限
教員の経歴	1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 論文「老人保健施設におけるADL訓練の位置づけ」「椅子に座って食事しよう」「病棟訓練の視点としてのリハ計画書」他						
授業の学習内容	地域で生活している高齢者や障がい者の生活を支援するため、関係法規や支援技術・知識を学び、その背景も理解する。地域生活は日本が抱える社会問題とも関わりが深いため、日本の政治経済にも関心を持てるようになってもらい、在宅生活支援を実践する理学療法士としての基本を学んでほしい。						
到達目標	地域理学療法概念・背景・関連法規について理解し説明できる。 地域で生活する高齢者や障がい者のリハビリ提供システムを理解し説明できる。 地域支援におけるケアマネジメント機能を理解し説明できる。 地域包括ケアシステムについて理解し説明できる。						
評価方法と基準	定期テスト100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/31	講義	地域理学療法概論	復習を行う事
2	5/31	講義	①地域包括ケアシステムについて理解する	復習を行う事
3	6/14	講義	②地域包括ケアシステムについて理解する	復習を行う事
4	6/14	講義	介護保険制度制定の背景と仕組みについて理解する	復習を行う事
5	6/21	講義	地域包括支援センターの役割について理解する	復習を行う事
6	6/21	講義	①介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する	復習を行う事
7	6/28	講義	②介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する	復習を行う事
8	6/28	講義	③介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する	復習を行う事
9	7/5	講義	①医療保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する	復習を行う事
10	7/5	講義	②医療保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する	復習を行う事
11	7/12	講義	地域リハビリテーションニーズについて理解する	復習を行う事
12	7/12	講義	地域における健康増進・介護予防について学習する	復習を行う事
13	7/26	講義	障がい者福祉と地域理学療法について理解する	復習を行う事
14	7/26	講義	地域でのリハビリテーションにおける課題についてグループワークで検討する	復習を行う事
15	9/16	試験		
16	9/16	講義	試験解答を説明することができる	復習を行う事
準備学習 時間外学習 各回毎に必要な考える運動学の知識を事前に確認し、終了後は復習をすること				
【使用教科書・教材・参考書】				
理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト7 地域理学療法学 (メジカルビュー社)				

科目名 (英)	地域理学療法学実習 (Practice of Community PT)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	塚野智史
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	急性期病棟(脳外科、整形外科、呼吸器科、循環器科、外科、等)、回復期病棟、通所リハビリテーションに理学療法士として計12年勤務。						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域理学療法法の知識を用いて、理学療法士として病院外で地域住民の健康を支える役割を理解する。 ・地域高齢者に対する検査・測定、およびフィードバックを実践し、地域理学療法に対する理解を深める。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域高齢者に対する評価及び適切なフィードバックを実施することができる 						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート(80%) ・出席(20%) 						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/7	演習	評価実技練習	演習内容の復習・練習
2	4/7	演習	評価実技練習	演習内容の復習・練習
3	5/19	演習	評価実技練習	演習内容の復習・練習
4	5/25	演習	評価実技練習	演習内容の復習・練習
5	5/26	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
6	5/26	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
7	6/2	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
8	6/2	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
9	6/9	演習	運動プログラム考案、練習	演習内容の復習・練習
10	6/9	演習	運動プログラム考案、練習	演習内容の復習・練習
11	6/16	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
12	6/16	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
13	7/7	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
14	7/7	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
15	7/28	演習	運動プログラム考案、練習	演習内容の復習・練習
16	7/28	演習	運動プログラム考案、練習	演習内容の復習・練習
17	9/15	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
18	9/15	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
19	10/20	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
20	10/20	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
21	11/17	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
22	11/17	実習	課外授業(運動教室)	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
23	12/1	講義	全体フィードバック	復習
			復習: 講義のまとめ、演習の復習	課題: フィードバック資料(レポート)作成
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	国家試験演習Ⅱ (The prac of Qualifying Exam Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2単位)	開講区分	後期 木曜日 5時限
教員の略歴	理学療法士として急性期心臓リハビリテーションの業務に8年間従事						
授業の学習内容	理学療法士国家試験合格に向けて、一般臨床医学、整形外科学、神経内科学等の専門基礎分野を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントの把握に加え、専門基礎分野の理解を深める。						
到達目標	①専門基礎分野の基礎学力を向上できる ②学習方法を確立できる ③学習習慣を確立できる						
評価方法と基準	1)筆記試験 (100%)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1	9月1日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(整形外科学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
2	9月1日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(整形外科学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
3	9月8日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(整形外科学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
4	9月8日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(整形外科学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
5	9月22日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(義肢装具学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
6	9月22日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(義肢装具学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
7	9月29日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(義肢装具学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
8	9月29日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(義肢装具学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
9	10月6日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(一般臨床学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
10	10月6日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(一般臨床学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
11	10月13日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(一般臨床学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
12	10月13日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(神経内科学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
13	10月20日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(神経内科学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
14	10月20日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(神経内科学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
	10月20日	試験					
15	11月10日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(神経内科学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】 □							
国試の達人 PT・OTシリーズ2021 一般臨床学編 アイベック							